

整理番号 S-121

出 展 織物欠点解析事例集(第 3 集)

欠 点 名 たて筋(張力斑)

品 名 交織ローンタフタ

試料形態 織物

組 織 平(たて 132 本/インチ、よこ 96 本/インチ)

糸 使 い

たて糸:異形ポリエステル 50d/36f 無撚糸

よこ糸:ポリエステル/綿混紡糸 60 番単糸 (混率 65%×35%)

欠点発生状況

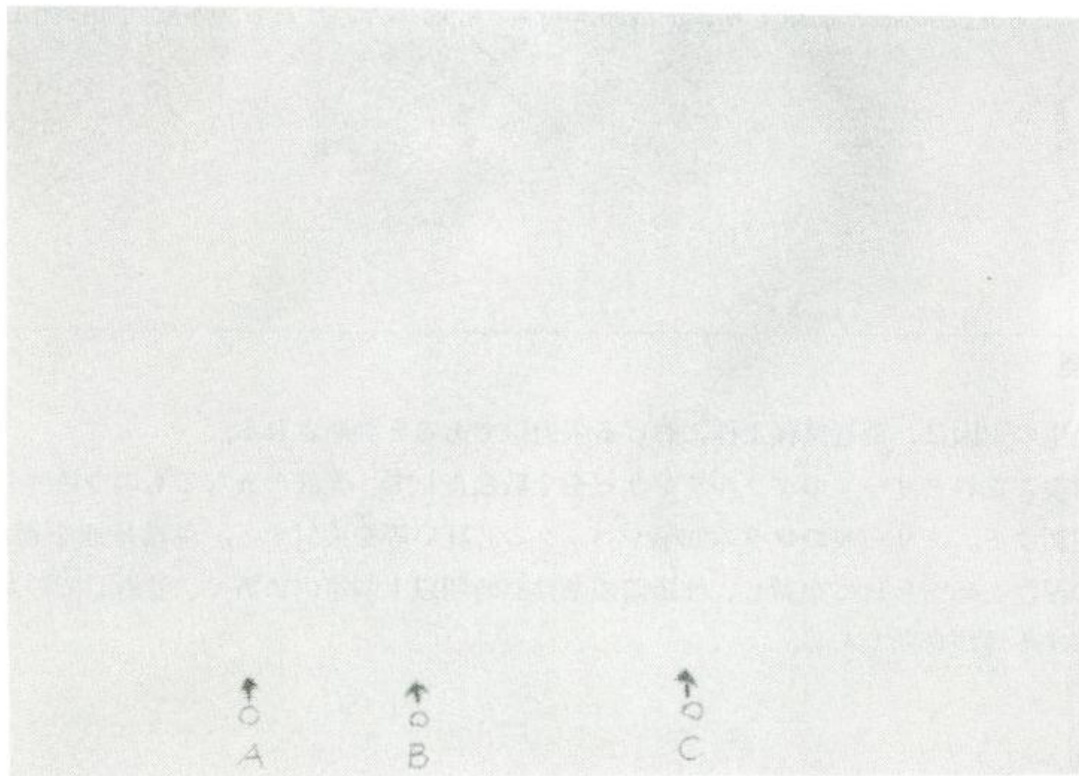
生機検査では極く軽微に見えたが、加工上がりで極端に目立って発現した。たて筋は特定の周期がなく、境目が不鮮明である。

準備:サイジング 1 ロットに限られて発生

製織:シャトル織り

染色:緑と茶系統の中色でC反が大量に発生

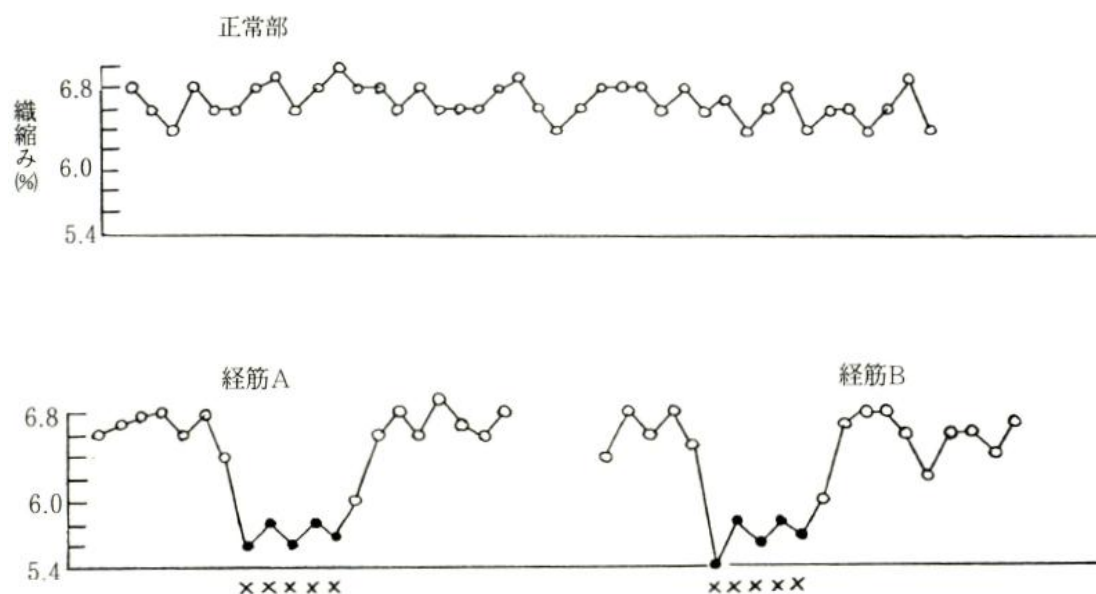
試料写真



試験結果

(1) 織縮み率測定

- ・正常部分の織縮み率の差は 0.6% であるのに対し、筋の部分は約 1.3% であった。



[原長 500mm、荷重 7gf、正常部は 40 本、たて筋部 A、B とも 20 本配列順に測定]

所見

たて筋発生の主因は、荒巻整経工程における張力斑であると判断される。

防止対策は、荒巻クリールのダブルテンサーを全数検査して、光沢の異なるものや精度の不良なものを更新する。クリールのコラム間隔やペックの芯狂い等を検討する。荒巻糸速を遅くする。荒巻室の湿度を 65%RH に空調し、仕掛前の糸は 24 時間以上同室内に置く、巻返しでの糸ずらしを 4 本にする等が有効である。